

ぜんたい

令和8年 7月
第81号



全国一斉カワウ対策の取組 広島県の可愛川漁協によるテグス張り

CONTENTS

巻頭言	2	気になる研究結果(国研 水産研究・教育機構水産技術研究所)	16
令和8年度通常総会	4	気になる研究結果(国研 水産研究・教育機構水産技術研究所)	18
新役員紹介	4	新作映画「サクラマスのラストワルツ」	20
全内漁連開催の各会議について		だれでもできる！内水面漁協の経営診断	22
監事会、総務委員会、推薦会議、理事会を開催	5	内水面漁協(第51回)	24
推薦委員選出協議会を開催	5	愛しきアユ(第54回)	25
ブロック会議を開催	6	漁場生産力・水産多面的機能強化対策支援委託事業	26
外来魚対策事業の第1回検討委員会を開催	6	カワウの全国一斉対策の取り組みについて(第13回)	27
カワウ対策事業の第1回検討委員会を開催	7	日光支所から	28
資源回復のための種苗育成・放流手法検討事業(アユ)第1回検討委員会を開催	8	春の叙勲	29
みんなでやるぞ内水面漁業活性化事業の事業実施団体を決定	8	新会長の紹介	29
令和8年度第1回全国事務担当者研修会	10	業務日誌	30
内水面漁業振興議員連盟 総会	12	全内の会員組織変更について	31
釣りの持つ価値をこれからも	13	全内漁連の事務体制について	31
新任のごあいさつ	14	新聞記事から	31
漁協組合員を紹介します(高知県 仁淀川漁協)	15	編集後記	31

全国内水面漁業協同組合連合会

漁業者(会員・漁連)の傘下漁協組合員
漁業者以外の購読者

年間契約「四回発行」定価三、三〇〇円(本体二、〇〇〇円)送料サービス
年間契約「四回発行」定価四、四〇〇円(本体三、〇〇〇円)送料サービス

単品 定価八、二五円(本体七、五〇円)送料別
単品 定価一、一〇〇円(本体一、〇〇〇円)送料別

刊行物案内

本会では、漁場環境の改善に係る水産庁の委託事業を受託しています。事業終了後にその結果を、報告書として取りまとめ、漁業関係者ほか多方面に実費負担で提供しています。ご希望の方はこちらの申込方法をご覧ください。在庫がなくなり次第、終了とさせていただきます。
※価格には送料・消費税10%が含まれています。

タイトル	監修・編集	発行	価格	在庫
アユ種苗の放流の現状と課題 —琵琶湖産、人工産、海産の特性を考慮した増殖事業—	監修 農学博士 石田 力三	H14.3	2,100	
魚を取水施設に迷入させないための試み —内水面資源利用向上対策事業報告書—	監修 愛媛大学名誉教授 水野 信彦	H13.3	1,570	
天然アユを川にたくさん遡上させるための手引き —海産アユ種苗回帰率向上総合調査報告書—	監修 東京大学名誉教授 羽生 功	H12.6	2,620	
「身近な川と魚の調べ方」を用いた調査と さかんなに配慮した河川工事事例 —都市近郊河川漁場改善調査報告書—	監修 広島大学名誉教授 中村 中六 東京大学名誉教授 平野 礼次郎	H8.3	2,410	
魚の迷入の実態とその対策へのアプローチ —放流稚魚等迷入防止対策事業報告書—	監修 水産環境研究所代表 石田 力三	H8.3	2,940	少
農業水利施設の魚道整備の手引き	編者 農業水利施設魚道整備検討委員会	H6.3	2,100	少
汽水域資源の有効利用をめざして —汽水域総合開発利用調査報告書—	監修 東京大学名誉教授 日比谷 京	H6.3	1,890	
ブラックバスとブルーギルのすべて —外来魚対策検討委託事業報告書—	監修 東京大学名誉教授 羽生 功	H4.3	3,150	少
魚を育む豊かな流れ —河川生物資源保全流量調査報告書—	監修 東京大学名誉教授 日比谷 京	H1.3	2,410	少

【申込方法】

お申し込みは、申込書をHP上でダウンロードして印刷し、必要事項をご記入の上、FAX、郵送または電子メールにてお送りください。お支払いは、現金書留、または銀行振込にて先払いをお願いしています。入金が確認出来次第、お届けいたします。

●郵便の場合

現金と申込書を同封の上、現金書留にて本会事務局までお申し込みください。

●銀行振込の場合

申込書をファックスまたはお電話、電子メールにてお届けください。折り返し振込先をお伝えします。

【申し込み先】

全国内水面漁業協同組合連合会

〒101-0044
東京都千代田区鍛冶町1丁目10-4
丸石ビル4階
TEL: 03-6260-9595
FAX: 03-5296-2030
E-mail: zennaigyoren@naisuimen.or.jp

information

令和8年度 第67回

全国内水面漁業振興大会

日 時：令和8年10月14日(水)

場 所：ニッショーホール
〒105-0001 東京都港区虎ノ門2丁目9番16号
日本消防会館2階

機関誌 ぜんたい 第81号

全国内水面漁業協同組合連合会機関誌

令和8年7月発行

発行人：全国内水面漁業協同組合連合会
代表理事会長 谷 公一

編 集：本所 機関誌編集委員会

発行所：全国内水面漁業協同組合連合会

〒101-0044
東京都千代田区鍛冶町1丁目10番4号 丸石ビル4階
TEL：03-6260-9595 FAX：03-5296-2030
ホームページ：https://www.naisuimen.or.jp

印 刷：鵜川印刷株式会社
〒923-0053 石川県小松市河田町丁33番地



気になる研究結果

イワナが増えたっ！一石五鳥の隠れ家づくり 土砂活用と地域協働による放流効果改善の取り組み

国立研究開発法人水産研究・教育機構 水産技術研究所
沿岸生態システム部 環境・基盤部門 内水面グループ

宮本 幸太



栃木県日光市を流れる大谷川のニッコウイワナは、静かに数を減らしている。川の環境の変化、魚を食べる鳥の増加、外来魚ブラウントラウトの侵入、乱獲など、原因は一つではない。さらに大規模な土砂流入も発生し、比較的良好だった上流部でも減少が進み、状況は一層厳しさを増している(写真1)。



写真1 土砂が流入した河川の様子

この状況を受け、市民団体(ニッコウイワナに学ぶ会)、行政(国交省日光砂防事務所、栃木県日光土木事務所、日光市役所)、漁協(栃木県鬼怒川漁業協同組合日光支部)、研究所(水産研究・教育機構)、企業(古河日光発電株式会社)からなる協議会が設立され、力を合わせて課題に取り組みることになった。ところが当初は、制度や役割の違い、土砂の扱いをめぐる問題、川の現状に対する認識の差があり、議論は難航した。

その中で背中を押したのは、地元小学生たちの「イワナを守りたい」という声だった。将来を担う子どもたちの声は、立場の違いを越えて、「自分たちの川を安全で豊かな川として守りたい」という思いを共有させた。その思いを原動力に、3年以上の協議を経て、堆積土砂約1,100トン进行安全な場所へ移動することができた。

しかし、動かした土砂が消えることは

ない。さらに川には新たな土砂が流れ込み、また堆積する。

そこで私たちは発想を変えた。「この土砂を、イワナのために使えないか。」

小学生たちとの河川調査の結果から、イワナの生息には、身を隠せるすき間に加え、鳥類などの捕食者からの視



写真2 河川の堆積土砂と間伐材を利用して作成したイワナの隠れ家

認を防ぐ覆い構造が重要であることがわかった。大型の岩が理想だが人力で設置するには現実的ではない。そこで土砂をコンクリートで固めて作った約10kgの人工岩に枝束(1m程度の枝3本)を組み合わせ、小型の漁礁をつくった写真2。大岩ほどの強度はないが、隠れ家としての効果は十分に期待できる。枝は日光市森林組合の間伐材を活用した。地域の森林整備にもつながり、山からの土砂流出の抑制にも役立つ。

「邪魔な土砂」や「活用されてこなかった枝」を「役立つ資源」に変える試みである。

こうして見えてきたのは、この取り組みが想像以上に多くの価値を生み出していたことだった。この取り組みは①土砂の活用、②森林資源の循環利用、③イワナの保全を同時に実現した。さらに小学校の授業として実施することで、④子どもたちが地域の自然や環境問題を

知る機会となり、⑤関係団体にとって地域への社会貢献活動にもつながる。まさに「一石五鳥」である(写真3)。



写真3 小学生らが漁協組合員と力を合わせて隠れ家を設置している様子

特にイワナの保全については、その成果が国際学術論文にも掲載され、イワナの放流効果の改善が期待されている。コンクリート護岸された堰堤直下に隠れ家の設置区と非設置区を設定して放流実験を行ったところ、隠れ家周辺では約5か月後の生残率が5倍程度にまで向上した(図1)。さらに放流から1年後の設置区(約90m区間)では、15cm以上に成長した放流イワナの数が非設置区よりも多く、野生魚を含む総生息個体数も増加した。これは、岩や倒木が乏しかった堰堤直下(三面コンクリート護岸区間)が生息空間として機能するようになったためである。

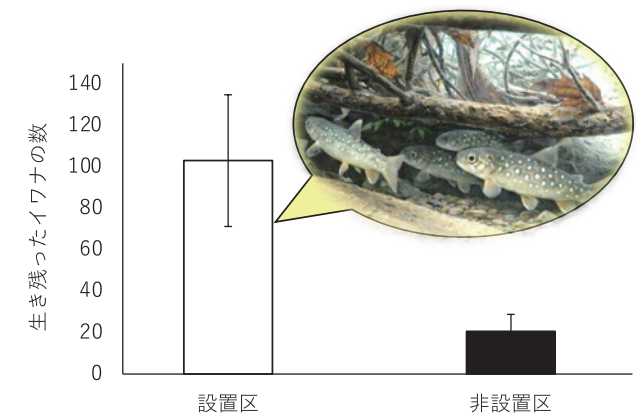


図1 隠れ家の有無とイワナ稚魚の生残個体数との関係

放流魚は、餌が豊富で外敵のいない環境で育つため、川で生き抜く術を十分に学ばないまま放たれる。結果として捕食されたり、先住魚との競争に負けてしまうことが多い。

「魚のくせに情けない」と思う人もいるかもしれない。だがこれは、我々現代人(日々ダイエットを考え、クマ被害で大パニック)が何も持たぬまま太古の大自然へ放り出され、生き延びられるかを想像してほしい。あなたには、その自信はあるだろうか。

猛獣や厳しい気候から身を守り、新しい環境に慣れるには、まず安住の地が必要だ。魚も人も、身を守る場所があ



写真4 日光砂防事務所によるイワナ保全のための巨石投入

ってこそ環境に適応する力を身につけていく。隠れ家は、命をつなぐ避難所であり、学習の場でもある。また、子どもたちが隠れ家づくりに参加したことの意義も大きい。授業後のアンケートでは、子供たちが命の尊さや協力の大切さを学び、将来の自然や生き物について考えるきっかけになったことが確認された。これらの経験が今後、地域の自然のために行動する人を育てていくことにつながるだろう。

魚は生き延びる術を得て、人は川と向き合う意味を学んだ。もちろん、隠れ家の設置だけで流域

全体の問題が解決するわけではない。しかしこの活動をきっかけに、行政によるイワナ保全を目的とした巨石投入(写真4)や魚道改修事業が進み、その維持管理を市民団体や漁協が協力して行うなど、新たな連携が生まれている。

大谷川には、まだ多くの課題が残っている。川の問題を解決するために必要なのは、技術だけではない。

人の関わりそのものだ。まずは川に身近な人へ現状を伝え、ともに考え、ともに手を動かす機会をつくること。

そうして「無関心」を少しずつ減らしていくこと。

そこから、すべてが始まるのだと思う。

本稿で紹介した研究の詳細については、以下の論文をご参照いただきたい。 Miyamoto, K., Michita, Y., Fukuda, M., & Kinoshita, A. (2026). Enhancing stream fish settlement through community-based habitat restoration: a case study with stocked white-spotted charr. Environmental Biology of Fishes, 109(1), 31.

【関連記事】本誌76号(イワナが増えたっ！ブラウントラウト対策と釣り場づくり) / 79号(イワナの好きな場所、嫌いな場所)

だれでもできる！内水面漁協の経営診断　～漁協が元気になるための虎の巻～

とらのまき

（2026年5月　国立研究開発法人水産研究・教育機構　水産技術研究所　内水面グループ）

令和7年度に岡山県で開催した第2回全国事務担当者研修会において、国立研究開発法人水産研究・教育機構　水産技術研究所　環境・基盤部門　沿岸生態システム部　内水面グループ研究員の中村智幸氏に講演いただいたマニュアル「だれでもできる！内水面漁協の経営診断～漁協が元気になるための虎の巻～」が、同機構のホームページに掲載されました。

漁協が自分たちでできる経営診断の方法と経営の改善方法について実例も踏まえて詳しく解説されているマニュアルです。また、マニュアルの中にある組合員数の年変化などのグラフを作れるExcelのファイルも併せてダウンロードできます。同機構のホームページの「研究紹介」の中の「指針・マニュアル・事例集」からダウンロードできますので活用ください（https://www.fra.go.jp/home/kenkyushokai/guideline_manual_case.html）。



「マニュアルの概要」はじめに

川や湖の漁業協同組合である内水面漁協は、組合員の生活のための漁業や、組合員の自家消費や息抜きのための釣りなどを支援する活動をしています。

また、組合員以外の釣り人である遊漁者が楽しく釣りができるようにするための活動もしています。さらに、川や湖の環境保全や、子どもたちや一般の人々への川や湖の環境教育や釣り教室などもしています。このように、内水面漁協は地域や社会にとって大切な存在です。

しかし、組合員の減少や高齢化、収入の減少などのために、漁協の活性は低下し、元気がなくなりつつあります。

そこで、このマニュアルでは漁協が自分たちでできる漁協の経営診断の方法をご紹介します。また、漁協の経営の改善方法もご紹介します。

都道府県の水産課や水産試験場が漁協に代わって経営を診断して、漁協に経営改善のアドバイスをするのにもこのマニュアルはお役に立ちます。

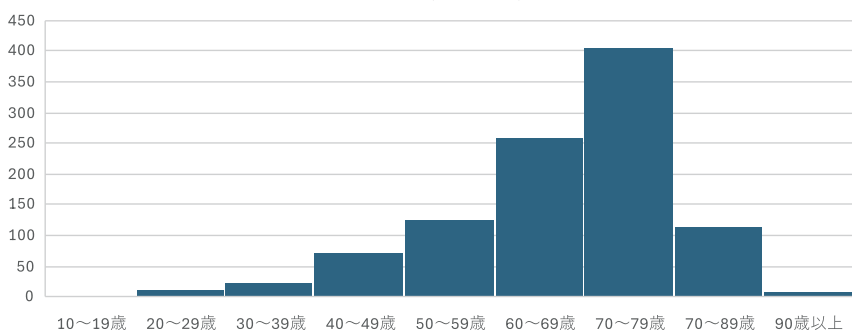
ぜひ、ご活用ください。できそうなことからやってみてください。

- 第1章まぎやってみよう！～いろいろの「は」～
- その1 組合員について～組合員の人数・年齢～
- 1. 組合員数の変化
- 2. 組合員の年齢構成
- 3. 漁業者数、漁業従事者数

組合員の年齢構成

	年代別の人数								
	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	70～89歳	90歳以上
令和7年	0	13	25	74	126	259	407	114	9
令和12年									
令和17年									
令和22年									
令和25年									

年齢構成（令和7年）



第2章次にやっていたきたいこと　～いろいろの「は」～

その1 アユと溪流魚の放流事業の採算性の診断

＊放流にかかった費用を、遊漁料と行使料の収入でどのくらい回収できているかという観点が必要で。グラフ化して、採算がとれているか評価してください。

その2 増殖と行使料・遊漁料収入の附属明細書の作成

＊「増殖」と「受入漁業権行使料・遊漁料（行使料収入と遊漁料収入の額を魚種別に記載）」の表を作って、附属明細書として業務報告書に付け加えることで増殖経費を行使料・遊漁料収入でどのくらい回収できているのかを魚種別に知ることができます。

＊多くの漁協で遊漁券（遊漁承認証）が「あゆ」と「雑魚」にしか分けられていません。そのような漁協では、遊漁券の魚の種類を少なくとも「あゆ」「溪流魚」「雑魚」に分けることをおすすめします。

受入漁業権行使料・遊漁料（令和　年）

	行使料			遊漁料						合計（円）	備考
				年券			日券				
魚種	人数（名） a	金額／名（円） b	計（円） a×b=c	交付数（枚） d	金額／枚（円） e	計（円） d×e=f	交付数（枚） g	金額／枚（円） h	計（円） g×h=i	c+f+i	
(例) あゆ	20名	10,000円	200,000円	500枚	12,000円	6,000,000円	800枚	2,500円	2,000,000円	8,200,000円	
(例) いwana	—	—	—	400枚	7,000円	2,800,000円	900枚	1,000円	900,000円	3,700,000円	行使料を設定していない
(例) 全魚種	—	—	—	300枚	18,000円	5,400,000円	—	—	—	5,400,000円	

第3章もうちょっとやってみよう！～いろいろの「は」～

その1 自己資本比率

その2 固定比率

その3 当座比率

その4 利益準備金

＊貸借対照表から数字を読み取り、計算して分析してみることが重要です。

第4章いろいろな問題の解決に取り組んでみよう！　～漁協経営の改善策～

その1 魚を増やす方法　～水産資源減少の対策～

その2 組合員を増やす方法　～組合員減少の対策～

その3 収入を増やす方法　～収入減少の対策～

その4 若い組合員を増やす方法　～組合員高齢化の対策～

その5 元気な組合員を増やす方法　～人材不足の対策～

＊水産庁のホームページ「内水面に関する情報」↓「各種パンフレット等」に魚を増やす方法のマニュアルなどが掲載されているのでご活用ください。

＊現状、収入の増加が見込めるのは遊漁料です。

遊漁者を増やす方法については、「内水面における遊漁の振興について（提案書）」をごらんください（https://www.suisan-shinkou.or.jp/promotion/pdf/landwater_report_20190218.pdf）。

＊漁協は若い組合員の話に耳を傾けたり、若い組合員を役員などに選んで漁協のことの決定に関われるようにしたりすることで若者の漁協加入やその後の活躍を期待できます。

＊漁協が変わるためには、門戸を開いているいろいろな人が組合員になれるようにする必要があります。最近の人気のある釣りを知っていたり、子どもたちへの啓発活動に関心があったり、自然環境の保全に関心があったり、組織運営や経営の能力があったりする組合員を役員などに選ぶことが重要です。

＊組合員のスキル（知識や技術）の向上も必要です。都道府県の水産課や水産試験場などに相談して、研修会や勉強会を開催してください。

＊組合員が増えているのか、高齢化がどのくらい進んでいるのか、漁業者と漁業従事者が漁協に何人いるのかを知ることは重要です。組合員の増減や年齢構成をグラフ化して役員や組合員と共有することをおすすめします。組合員が減っていることを実感するのが大切です。組合員を増やす方法は第4章で紹介しているのでお取り組みください。

その2 お金について　～財務～

1. 収入額

2. 収入の内訳

3. 剰余金・損失金

＊収入額の年変化を見ることが重要です。収入額の変化のグラフを作ることをおすすめします。また、収入の内訳ごとの金額とその割合を表にまとめることで自分の漁協ではどの項目の収入が多いのか項目ごとの収入額の年変化がわかります。業務報告書の中の損益計算書や貸借対照表に書かれている剰余金・損失金をグラフ化して、漁協経営が黒字か赤字かを把握し対策を検討するのも重要です。

その3 増殖事業　～「放流事業」ではなく「増殖事業」～

1. 増殖経費

2. 増殖経費と遊漁料収入の関係

＊平均で漁協の年間支出額の約4割が増殖経費であることから、総支出額の中の増殖経費の割合を把握し、グラフ化して経年変化を知ることが重要です。放流以外の増殖（産卵床造成、汲み上げ放流・汲み下ろし放流など）を行うことも検討してください。

＊遊漁料収入は漁協の収入の約3割を占めます。増殖経費と遊漁料収入の関係を見ることが重要です。＊遊漁料収入の額を増殖経費で割った値が1より小さい場合、増殖経費を減らすか、遊漁料収入を増やすなどの対策を考えることも必要です。毎年のようにその値が1より小さい場合は、すぐに都道府県の水産課や水産試験場に相談してください。水産課や水産試験場と対策を考えて、実行することをおすすめします。